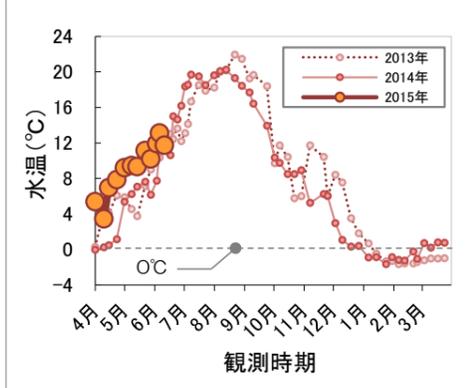


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2015年6月)

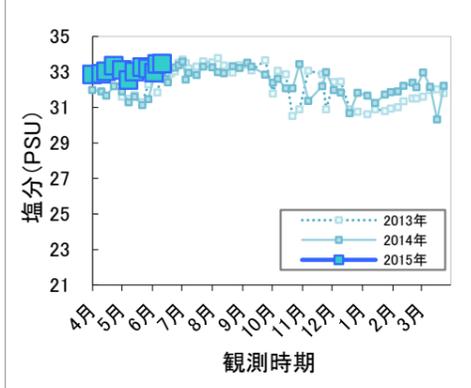
海洋環境データ

※観測：紋別市

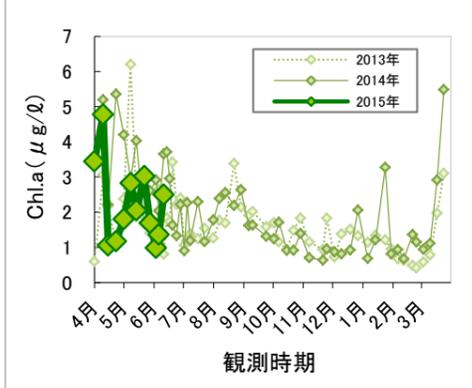
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



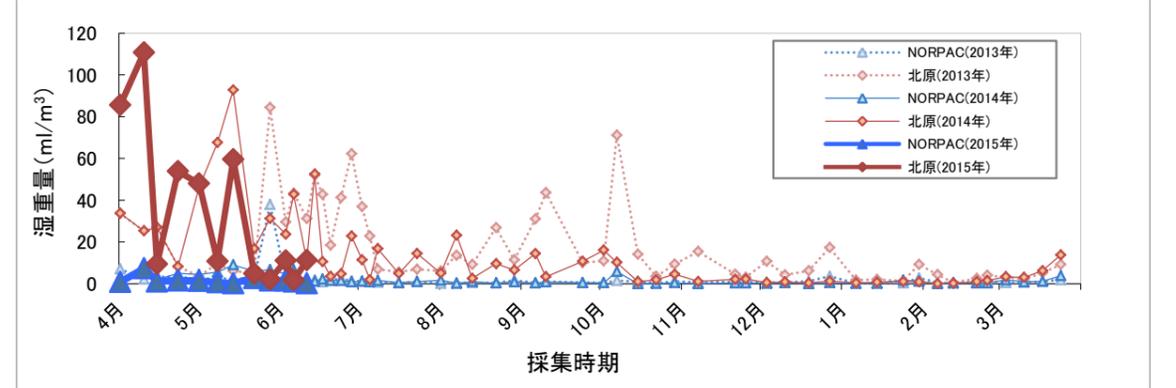
◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



概要

Table with 5 columns for dates (6月6日, 6月12日, 6月16日, 6月22日, 6月30日) and rows for water temperature, salinity, Chl.a, sedimentation, and species lists.

出現量の多かった種類

Grid of images and descriptions for various plankton species including Pseudocalanus newmani, Tortanus discaudatus, Oithona similis, Copepoda (nauplius), and Pinnixa sp. (zoea).

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[...]内の“+”は分析者主観による個体数の多さを示す(+)出現、(++)やや多い、(+++)多い、(++++)かなり多い、(++++)極めて多い。
※種名の後ろの記号は、北海道において後述の性質が強い種類を示す(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。
※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)、腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量および湿重量には植物プランクトンの重量も含まれている。
※湿重量の“0.0”表示は四捨五入の都合上、“0.1(g)”未満になったことを示す。
※参考文献：①千原・村野(1997)日本産海洋プランクトン検索図説(東海大学出版会)②山路(1966)日本海洋プランクトン図鑑(保育社)③岩国市立微生物学館 監修(2011)日本の海産プランクトン図鑑(共立出版)
④Wilson, M. S., 1966. North American Harpacticoid copepods. 8: The Danielssenia sibirica group, with description of D. stefanssoni Willey from Alaska. Pac. Sci. 20 (4), 435-444.
⑤Pinchuk, A. I., Hopcroft, R. R., 2006. Egg production and early development of Thysanoessa inermis and Euphausia pacifica (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. J. Exp. Mar. Biol. Ecol. 332, 206-215.
⑥林(2006)水産無脊椎動物学入門(恒里社厚生館)⑦Ohtsuka, S., H. Itoh & T. Mizushima, 2005. A new species of the calanoid copepod genus Centropages (Crustacea) collected from Shimizu Port, middle Japan: Introduced or not? Plankton Biol. Ecol. 52 (2), 92-99.
⑧西・加藤(2002)日本産カムリゴカイ科多毛類の分類について. タクサ第13号, 5-17. ⑨今島(1996)環形動物 多毛類(生物研究社)⑩日本プランクトン学会 監修(2011)すかん プランクトン[技術評論社]⑪水島・鳥澤 監修(2003)漁業生物図鑑 新北のさかなたち[北海道新聞社]